

保護者と教育関係者のための ADHD 啓発ウェブサイトを開発

塩野義製薬株式会社（本社：大阪市中央区 代表取締役社長：手代木 功）とシャイアー・ジャパン株式会社（本社：東京都千代田区 代表取締役社長：グレン・スノハラ）は、2017年3月、注意欠如・多動症（以下、「ADHD」）の疑いのある子どもを持つ保護者及び教育関係者向けに、ADHDの理解を深めていただき、よりよい支援や治療につなげていただくことを目的とした ADHD 啓発ウェブサイト「知って向き合う ADHD」(<http://www.adhd-info.jp/>) を開設しました。

注意欠如・多動症（以下、「ADHD」）は、不注意・多動性・衝動性の3症状を主な特徴とする神経発達症群（発達障害）の一つで、心理社会的治療・支援と薬物療法により治療可能な脳機能の障害です。DSM-5では、子どものADHDの有病率は5%で、成人は2.5%と記載されています。¹

ADHDの子どもに対しては、個々の特性を踏まえたうえで、それぞれに適した社会的・教育的な支援や、家庭や教室での良い環境づくりが重要とされています。本ウェブサイトでは、保護者向けには、ADHDの特性などの解説やADHDの子どもを持つ先輩ママのインタビュー動画、相談・受診に関するQ&Aなどを、教師など教育関係者向けには、ADHDを持つ子どもへの対応や、保護者とのコミュニケーション、学級運営のコツなどを紹介しています。

【ウェブサイトの各ページと動画のキャプチャー画像】



トップページ

保護者向けページ

¹ American Psychiatric Association: Diagnostic and Statistical Manual of Mental Disorders, Fifth Edition (DSM-5). American Psychiatric Publishing 2013 (高橋三郎、大野裕監訳：DSM-5 精神疾患の診断・統計マニュアル.医学書院, 2014)



教育関係者向けページ



先輩ママインタビュー

ウェブサイトの主なコンテンツは下記の通りです。

<p>【保護者向け】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ADHD ってなに？ ● ADHD の特性 ● 先輩ママに聞く！うちの子育て ● ADHD 相談・受診 Q&A 	<p>【教育関係者向け】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ADHD について ● 保護者とのコミュニケーション ● 学校内・外の連携 ● ADHD のある子どもへの対応 ● 学級運営のコツ
--	---

【「先輩ママに聞く！うちの子育て」の内容】

保護者向けの「先輩ママに聞く！うちの子育て」ページでは、先輩ママ2人のインタビューを紹介しています。

■ かなしろにゃんこさん

かなしろにゃんこさんはマンガ家であり、本ウェブサイトのイラストも担当していただいています。ADHD の子どもを持つ母親として、ご自身の体験を率直にお話しいただいています。

■ 橋口亜希子さん

動画と記事で登場する先輩ママ橋口亜希子さんは、息子さんが小さいころ「乱暴な子」と言われるようになり、保育園に入ってからトラブルが絶えず、先生に注意される毎日で、育児書のような子育てができないことに大きな挫折感がありました。小学校に入学してからも教室を飛び出したり、掃除ロッカーに閉じこもったり、トラブルを起こすたびに学校の先生から呼び出され、仕事どころではなかったそうです。叱っても同じトラブルの繰り返しで、誰かに相談することもできず、自分を守るため、ほかの人を寄せ付けられないように心に鎧をまとって過ごしていたそうです。小学1年生のとき、小児神経科で「おそらく ADHD でしょう」と言われました。ADHD ではないのではと抵抗する気持ちもありましたが、そんなとき、医師が息子さんを守るための ADHD の治療法や対処方法を丁寧に説明してくれ、徐々に受け入れることができ、ずっとひとりで抱えてきた孤独感から解放されました。

【「ADHD 相談・受診 Q&A」の内容】

このページでは、「どこに相談すればいいの？」「専門の医療機関や相談機関ってどんなところがあるの？」「学校では誰に相談したらいいの？」などの質問を扱っています。

【「学校内・外での連携」の内容】

教育関係者向けの「学校内・外での連携」ページでは、特別支援教育コーディネーターや通級指導教室・特別支援学級の先生、養護教諭、校長などによる校内チームづくりや、校内委員会の役割と活用、専門家チームや巡回相談員など地域で活用できる様々な専門機関について解説しています。

【監修】

本ウェブサイトは、下記の専門家の方々に監修をしていただいています。(五十音順)

- 飯田順三先生 (奈良県立医科大学医学部看護学科人間発達学教授)
- 市川宏伸先生 (一般社団法人日本発達障害ネットワーク理事長)
- 岡田俊先生 (名古屋大学医学部附属病院親と子どもの心療科准教授)
- 齊藤万比古先生 (愛育クリニック愛育相談所所長)
- 田中康雄先生 (こころとそだちのクリニックむすびめ院長)
- 柘植雅義先生 (筑波大学人間系障害科学域知的・発達・行動障害学分野教授)
- 根来秀樹先生 (奈良教育大学教職大学院障害児医学分野教授/特別支援教育研究センター長)
- 松本英夫先生 (東海大学医学部専門診療学系精神科学教授)
- 宮島祐先生 (東京家政大学子ども学部子ども支援学科教授)
- 宮本信也先生 (筑波大学理事)
- 山下裕史朗先生 (久留米大学医学部小児科学講座主任教授)

塩野義製薬株式会社について

塩野義製薬は、「創薬型製薬企業として社会とともに成長し続ける」ことを経営目標として掲げた中期経営計画 SGS2020 の中で、「個人が生き生きとした社会創り」を当社が取り組むべき社会課題の一つと認識し、「生きにくさ」を抱える人々が、個人の持つ本来の能力を発揮していただくためのサポートを行っております。その具現化に向けて大阪府との「子どもの未来支援」に関する事業連携 ([1/25 の弊社リリース](#)) など、様々な取り組みを行っております。塩野義製薬はこれらの活動を通して、患者さんの健康と QOL の改善に貢献してまいります。詳細はホームページをご覧ください。
<http://www.shionogi.co.jp>

シャイアーについて

シャイアーは、希少疾患や特殊疾患の患者さんを専門とした、グローバルなバイオテクノロジーのリーディング・カンパニーです。血液、免疫、神経科、眼科、ライソゾーム病、消化器・内科・内分泌、遺伝性血管性浮腫 (HAE)、そして、成長中の腫瘍領域フランチャイズにおいて、革新的な医薬品の開発に努めています。シャイアーの製品は、100ヶ国以上で提供されています。

世界中に多くいる、希少疾患・特殊疾患をもつ患者さんや、効果的な治療法がない患者さんが、より質の高い日常生活を過ごすことができるよう、革新的な医薬品を開発し提供するという使命のもと、シャイアーの社員は日々尽力しています。<https://www.shire.co.jp/>

【お問合せ先】

シャイアー・ジャパン株式会社 渉外企画・広報部

TEL : 03-6737-0028

FAX : 03-6737-0278

塩野義製薬株式会社 広報部

TEL : 06-6209-7885

FAX : 06-6229-9596